

花ノ歌 ～心に響く音色を届けよう～

大地祭
目前に迫る

10月30日(土)に開催される大地祭(合唱コンクール)に向けて、各学級での練習も佳境を迎えているところです。音楽の時間や帰りの会後の学級練習の時間には、校舎に生徒の歌声が響きわたります。

生徒の皆さん、自分たちの合唱は順調に仕上がっているのでしょうか。おそらく、すべての学級がまだまだ多くの課題を抱えていることだと思います。また、そうでなければならぬと思っています。

なぜなら、大中学生は中途半端な努力や完成度で満足するような生徒ではないからです。常に、高みを目指して努力を重ねることのできる素晴らしい力をもっている生徒、それが大中学生であり、その集まりが大形中であると信じているからです。

どれだけ練習を重ねても、技術的な課題が尽きることはありません。そして、それとともに、「毎日の練習に全員が真剣に取り組んでいるだろうか」「学級全員が気持ちを一つにして合唱に向き合っているだろうか」といった学級の高まりにつながる課題もまた、高みを目指す集団であるほど、尽きることはありません。そして、自分たちを高めようとするほど、お互いの想いがぶつかり合い、苦しい状況も生まれます。ぜひ、この苦しさを乗り越えて、「合唱」と「学級」の両方の完成度を高める取組を充実させてもらいたいと思います。

合唱の完成度の先には「目標」の達成が見えてきます。そして、学級の完成度の先には「目指す姿」の達成が見えてくるはずです。この「目標」と「目指す姿」の両方をしっかりと意識して、ラスト、頑張りましょう！

「生徒の学びの保障」と「感染症対策」の両立を図って取り組みます

大地祭においても、自分が大切にすべきと考えていることは「生徒の学びの保障」です。そのために、安易にあきらめることなく、望ましい形を目指して可能性を探り、今回の内容・方法による実施となりました。

これは、新型コロナウイルスの感染リスクを軽く見ているということではありません。「教育か命か」という二項対立的な考え方ではなく、安全・安心を担保した上で教育活動を最大限充実させるための「最適解」「納得解」として導き出した、大形中としての答えです。

その前提となるのが「正しく恐れる」ということです。最近では新規感染者が非常に少なくなりましたが、ここで気を緩めることなく対策を徹底します。それにより、生徒の学びを最大限保障していきます。これが大形中のスタンスです。

日々の感染症対策や当日の検温・健康観察の徹底により、参加する生徒が感染している可能性は非常に低いと考えています。そのため、ステージ発表の場面に限り、生徒はマスクを外して歌います。そして、「明瞭な歌声」として当日に完成する生徒の合唱を「生の姿」で保護者にお伝えするために、学年入れ替えで人数制限もありますが、保護者の参観を可能としました。これは決してサービスとしてではなく、生徒の学びの姿を学校と保護者が実感をもって共有することが、その後の生徒のさらなる成長に必要不可欠であると考えるからです。

学校・保護者が手を携え、ともに力強く生徒(子ども)を応援する存在でありたいと思っています。



学級での練習にも力が入ります！

心に太陽を持って(ツェーザル・フライシュレン作)
心に太陽を持って
嵐が吹こうと 吹雪が来ようと
天には黒くも 地には争いが絶えなかりと
いつも 心に太陽を持って
くちびるに歌を持って 軽くほがらかに
自分のつとめ 自分のくらしに
よしや苦勞が絶えなかりと
いつも くちびるに歌を持って
苦しんでいる人 悩んでいる人には こう励ましてやろう
勇気を失うな くちびるに歌を持って 心に太陽を持って

全校朝会で紹介した詩です。
自分や仲間、学級が苦しいときに、思い出してください。



素敵なステージ看板！美術部の力作です！

令和3年10月26日

第18号

新型コロナウイルスの感染防止対策を確実に！

「正しく恐れる」

過度に恐れず、あなどらず

- 毎日の検温や健康観察
- マスク着用、大声を控える、咳エチケット
- 手洗い、アルコール手指消毒
- ソーシャル・ディスタンス
- かぜ症状 → 学校に来ない



4月全校朝会でのプレゼンより